

はは ばー、 ひー、

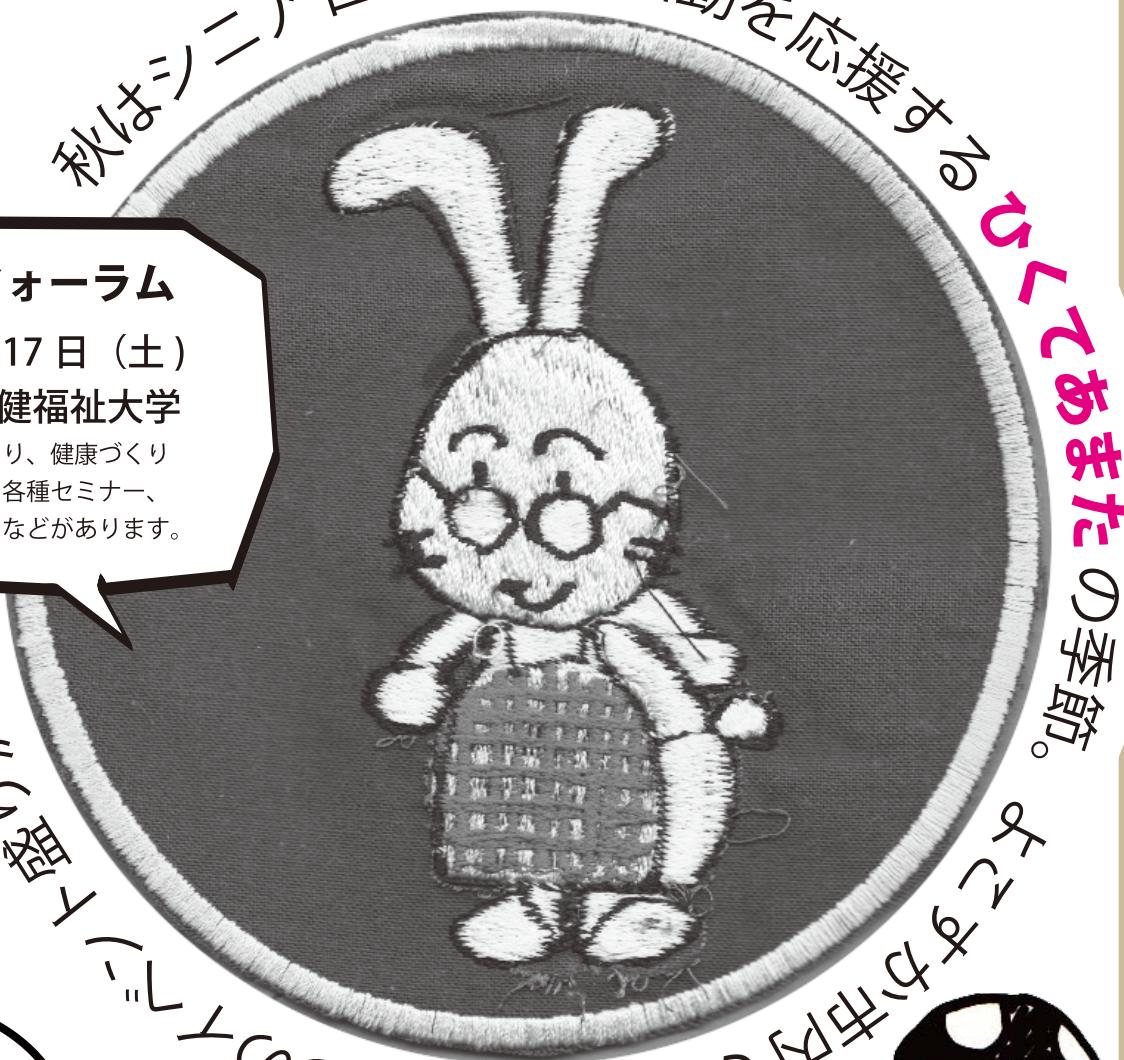
秋はシニア世代の市民活動を応援する

生涯現役フォーラム

2018年11月17日（土）

神奈川県立保健福祉大学

シニアの生きがいづくり、健康づくり
をテーマに、講演会、各種セミナー、
展示会、体験コーナーなどがあります。



かわいい 秋号

((すかっこ 市民活動情報))

ひしてあまたの季節。

好奇心をゆさぶる

なにか始めるきっかけづくり

次回は12月開催予定



市民活動を知ったり、興味を持ったり、
なにかやりたいことをみつけたりする
「きっかけ」になりますよ。
おかげさまで、回を重ねるごとに参加者
が増えています。
「いきいき市民塾」は年に4回開催。



4Sクラブのメンバーたち

細田さん

発起人 細田さんの市民活動



細田さん、市民活動を始めた時のことをおしえ
てください！

きっかけは、なんだつたでしょうかね…。
会社退職のタイミングもあり、仲間と「よこすかそば文化村」という蕎麦作りの会を立ちあげ、「のたろんフェア」の展示に参加しました。一方で、地域のシニアのソフトボールチームも作ったりもしていたんですよ。



仲間と市民活動をしていた細田さんも今ではサポセン
のスタッフなんですね～！

よこすかそば文化村で、「のたろんフェア」に参加したり、ソフトボールの活動にサポセンのスタッフが取材にきててくれて、いっしょになってソフトボールをやってくれたり、そういう縁もありサポセンの職員になりました。

職員になって、いきなり「のたろんフェア」の担当に任命されたのは、びっくりしましたね。他に誰もいないので、断るわけにもいかず、必死で取り組みました。

いきいき市民塾

「いきいき市民塾」は、市民活動に長く携わっている専門家をゲストに、活動を始めたきっかけや活動内容などのお話をうかがいます。講演後にはゲストをかこみ直接対話ができる、市民活動の面白さをより楽しく学ぶ時間をみんなで過ごします。

市民活動体験話を聞く会



いきいき市民塾のもよう
(第3回ゲストの大橋祥宏さん)



スタッフとして初めてののたろんフェアは細田さんの
中ではどんな思い出なの？

のたろんフェアは年に一度のイベントです。しかも当時は市制100周年の「のたろんフェア」、さらに「市民協働」が全国的に盛り上がっていた時代でした。実行委員みんなが燃えに燃えて、本気でフェアをよいものにしたいと思っていたんです。ですから常に議論百出、課題も暗礁に乗り上げ、いろいろな場面で板ばさみになり、本当に大変でした。無事にフェアが終了した時には、心底から安堵しました。おかげさまで市民活動のことがよく理解でき、それまでに知り得ないたくさんのことを探ることができました。



そうなんだー。その経験があるって、今では4Sクラブ
のまとめ役を務める細田さんがいるんだね！
のたろんにもこっそりみんなをまとめる秘訣をおしえ
てください！？

秘訣なんてものは、ありませんよ～
でも何か困ったことがあつたら、
できるだけ誠実に答えるようにしています。



インタビューするのは好き。されるのは苦手と苦笑いする。非核市民宣言運動・ヨコスカの新倉さんにお話を伺った。

1948 年横須賀に生まれる。子どもの頃はどちらかというと虚弱体質で、運動は苦手だった。運動が得意な父には、もう少し優しく指導をしてくれればと思っていた。そんな父は、志願して帝国海軍に入り、潜水艦乗りをしていた。戦後は、アメリカ海軍横須賀基地で働いた。父に連れられ、基地の中に入ることもあったし、親戚たちも基地で働いていた。高校を卒業するまでは、反基地運動は嫌いだったという。

ベトナム戦争の酷さについていろいろな報道に接するうちに、新倉さんの中には黙っていていいのか？ という葛藤が芽生えていた。そして、ベ平連や地区労などのデモに参加するようになっていった。

東京のデモに参加したとき、プラカードで横須賀の基地のことを訴えている 3 人の学生に会った。「東京のデモだけで良いのか、基地のある横須賀でデモをやろうではないか」。付き合いのあった横須賀の反戦兵士運動の方にも声をかけて、1972 年、米空母ミッドウェーの母港化が迫っている状況の中、横須賀市民グループを作り、10 人ほどでデモを始めた。グループには、合成洗剤追放等の環境問題を取り上げる人たちも一緒になってゆく。

新倉さんは高校を出たあといろいろな仕事をついたが、西友横須賀店で手書きで店内広告を作るパートの仕事をするようになっていた。子供が小学校に入るのを機に、横浜にある印刷会社の中途採用に応募した。デザイナー経験者での求人、作品を提出しなければならず、運動で作ったポスターとパンフレットを持参した。新倉さん曰く「それしかなかったから」。

面接を担当した専務（現社長）は、作品を見て「素晴らしいですね。」と言った。雇われるはずがないと思っ

ていたが、書いてある中身に左右されない姿勢は嬉しかった。そして 25 年間、編集、デザイン、版下づくり、執行役員、67 才まで働いた。

運動は、1976 年より月例デモを開催するようになった。始めて一年ほどすると参加者が数名しか集まらないこともあった。「それまでは、決意して、頑張って頑張って運動してきた、決意だけじゃどうにもならなくなったとき価値感がひっくり返った」。この頃、活動の周辺の人、ジャンルの違う人が参加してくれて質的転換があった。デモをやめなくて済んだのはこの町の人が優しかったからとも気づいた。「私はデモに参加しないけれど、いいんじゃないあっても」という雰囲気を、デモを見つめる人たちが作ってくれていることが、さえになったという。

そして、1981 年、核を搭載したまま船が入っているという、ライシャワー発言があり、多くの人が集まった。その時の人たちと、仕切り直しをして 1984 年「非核市民宣言運動」を立ち上げ、月例デモを引き継いだ。現在は、よろずピース B A N D を先頭に、オリジナルの歌を歌いながら演奏しながら、自らも楽しくできる、町に溶け込んだスタイルのデモをしている。昨年 9 月には通算 500 回を迎えた。

「父に、どうして米軍基地で働くようになったかなど、聞こうと思って聞けなかったのが心残り」。「やり残したことはたくさんある、運動の中でわかってきたことをちゃんとまとめたい。占領期の町の人がどんな風に暮らしてきたかをテーマに、パンフレットを作りたい」。生まれたときから、基地と共に歩んできた新倉さん、基地の町横須賀の葛藤と、新倉さん自身の葛藤、思想的な反基地運動とは異なる、心の内から滲みだしてくる声が聞こえたような気がした。

(はこざき)

団体紹介

非核市民宣言運動・ヨコスカ

活動の目的： 横須賀にある軍事基地をなくすことを願って、起きる問題や戦争などについて行動する

活動内容： 月例デモ行進／ヨコスカ平和船団／自衛官市民ホットライン／会報「たより」の発行

“運動する人の息づかいが伝わるニュースペーパー”「たより」は文字通り、横須賀にある軍事基地をなくすことを願って運動をする人たちの目線で伝える会報誌です。ほぼ月刊、B5 サイズ 24 ページの冊子はサポートセンのチラシラックにもお目見えします。テレビのニュースになった話題から、デモや運動をする上での小さな疑問まで、基地で働く人やデモに参加する人などへの取材もとても丁寧で、人気のある会報誌です。





アンケートの回答
全部見られます♪



サポセンを利用している人に聞きました。

東京から横須賀に引越してきたこと

挫折後、夢をあきらめた時、
平凡な道に喜びを見出した時。

結婚ですね。
家から独立したかったけど、
グレの勇気もなく夫を利用しました。
ゴメン！

10年ぶりに先輩とデパートで出会った。
北海道の人なのにビックリ

息子が病気になったこと、
身近な家族が突然思いがけなく死んだこと、
その結果、大切なこと、どうでもいいことが
見えてくるようになった。

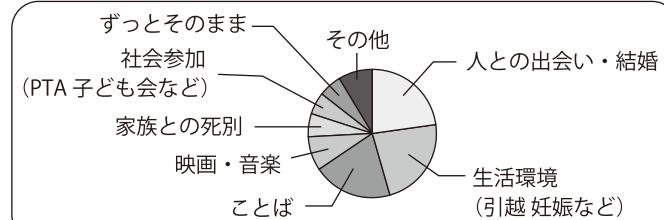
「風」が吹くだけで幸せ」なんていい考えだらうと思った。
高校生のころ 思い悩んでいた時のことです。

物心ついた頃から水中の生物に興味を持ち続け、
その延長で仕事も趣味も。
船で海へ出たり、貝殻集めをしたり…

で駅に戻った。
小灌木の藪で苦しめられた。湯河原峠まで進み、バス
があつたが、途中から藪になり、I氏と登った。笛と
良いのだが、道が無い所は苦労した。湯河原から伊豆
スカイライン迄の県境は最初こそ藤木川沿いを歩き道
い、県境尾根に変更した。県境沿いに道がある場所は
神奈川県境尾根を歩くシリーズを始めた。最初は県境
にしようと考えたが、多摩川土手を歩くのは嫌だと思
い（登つたことになる）とされている。平成4年から、
自然これらには登つてないが、ある程度まで近づければ良
い（登つたことになる）とされている。平成4年から、
北海道の幌尻岳が最後の百名山になつたが、2回雨
のため敗退した。登山道が沢を何度も渡渉するため、
雨だと登れない。安い航空券を買っているため、予約
の変更が出来ないため、登れなくとも帰りの日まで北
海道に居た。一度は、札幌のカブセルホテルに3泊し
たこともあった。晴れてから恵庭山と樽前山に登つた。
たくさんの中、火山の為、山頂に登れない山
がある。浅間山・北アルプスの焼岳・阿蘇山など。
とT氏と、男体山に登つた。この後も、百名山は単独
が多かつた。

(松崎健二)

おしえてください。あなたの人生の転機



PTAに参加し、社会教育に興味を持つた

そのころは銀行員で結婚して勤めている人がまだいませんでした。
子どもが生まれて1年4ヶ月まで勤めていました。

長男が50才で旅立ったのが転機かな

「腕に技術を持ちなさい！一生こまらない」という言葉

「風と共に去りぬ」を見たこと。
スカーレットのように、私も強く生きねば！
と思った。そして強くなりすぎてしまった…

これからできること！！
これから (産まれてからも) もっと大きくかわっていくことでしょう…

山の話

百名山と

平成2年春の時点で、数えたら100の内44座に登っていた。その年夏に山岳部の合宿で南アルプスの光岳に登った。冬に日光の皇海山に行つた。

ここから単独になった。夏に鹿島槍に単独でやはり登ってきた。

夏後半筑波山、9月に蓼科山。10月山岳部で雨飾山

に登つた。4年5月岩手山に登り、松川温泉に下り、タクシーで八幡平に転進した。7月上州武尊に、K氏と登る。8月単独にて、火打山、妙高山と高妻山に登る。9月沢登りも兼ねて、甲武信岳にY氏と登る。翌週妻とT氏と、男体山に登つた。この後も、百名山は単独

が多かつた。

のたろんがお送りする「のたろんジャーナル」



のたろんジャーナル

- ◆サポセン発信情報
- ◆Eメール info@yokosuka-supportcenter.jp
- ◆サポートセンターのホームページ
「のたろんWeb」は「のたろん」で検索♪

のたろん

検索

情報誌「のたろん」秋号（通巻76号）

発行 横須賀市立市民活動サポートセンター

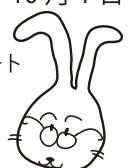
編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMCA コミュニティサポート

横須賀市本町3-27（京浜急行汐入駅徒歩1分）

TEL 046-828-3130

FAX 046-828-3132

市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用票のご記入をお願いします。



2018年10月1日

編集ボランティア／はこざき・みずたに・まつざき スタッフ／ぬまさき・のぎむら

***** サポセンtopics トピックス

サポセンで 休憩もどうぞ！

ドブ板通りにある創業66年の刺繡屋「大将」の主人は、店の帰りにサポセンの休憩コーナーによく寄っていってくれます。ある日、大将が「のたろん」の絵を持ってきました。数日後「いつも休ませてくれてありがとう」と、直径12cmのワッペンを作ってくれました。今号の表紙にあるのがそのワッペンです。

日頃はスカジャンの超かっこいい刺繡を作っている大将が作ってくれた「のたろん」は表情もかわいく、人懐っこそうで、それがどことなく大将に似ているとスタッフ間で好評です。